



鳥海山の会

CHOKAISAN — NO — KAI

会報 第2号

平成20年4月25日発行

本年度初めての事業として、次の日程で、秋田大学名誉教授新野直吉氏をお迎えしての「講演会」と会員による講話「私の鳥海山」を聞く会を開催します。会員外の方のご来場も歓迎しますので、お近くの方々にPRをしていただき、多くの方々が参加していただけますよう宜しくお願い致します。

◎講演会

- 講師 秋田大学名誉教授 文学博士 **新野直吉氏**
- 期日 平成20年5月31日(土) 午後2時から
- 会場 **鶴舞会館 講堂**(3階)

〔講師の略歴〕

1925年山形県生まれ。東北大学卒業後、秋田大学で長い間教壇に立たれ、1991年に秋田大学学長に就任。東北古代史研究の第一人者として数多くの著作物を刊行されている。これら功績が認められ、県教育、文化功労賞、河北文化賞などを受賞、2000年には勲二等旭日重光章を受章される。退官後に県立博物館館長を務められ、現在県立博物館名誉館長。今回は鳥海山の歴史と文化について語っていただきます。

〔主な著作物〕

『古代東北の覇者』『日本古代地方制度の研究』『古代東北の謎』『古代東北の兵乱』『古代東北と渤海史』『秋田美人の謎』など多数

◎会員による講話「私の鳥海山」

講演に先立ち、会員による「私の鳥海山」というテーマで、各自が得意とする分野から見た鳥海山等を約20分ほど話していただきます。今回は次の2人から講話をいただく予定です。見えなかった「もう一つの鳥海山」が見えてくるかもしれません。ぜひご拝聴ください。

- 北島 保雄氏…矢島在住で、由利本荘市俳句会の会長として県内外で活躍されています。今回は、自作の句で詠まれた鳥海山や俳句について文学的な視野からお話ししてもらいます。
- 安藤 武俊氏…「本荘山の会」、「秋田県山岳連盟」、「日本山岳会秋田支部」の顧問で登山家の大ベテラン。これまで海外を始め全国各地の山々に数多く登られており、鳥海山においては東西南北の各方面全ルートから踏破されています。最近では海からも鳥海山を眺望されていますので、鳥海山を万華鏡で覗くようなお話になるのでは、と期待しています。

会員からのお便り

会報第1号などを受け取りました。ついに動き出しましたね。(略)

鳥海山の植物はとても素晴らしい。種類が豊富で固有種・稀産種も多い。チョイアザミ・オクヤマワラビ・カラクサイノデ・ヒメウメバチソウ・アラシグサ・ヒメクワガタなどが何とも魅力的です。加えてヒオウギアヤメ・ツルタチツボスミレ・タテヤマスゲ・キンスゲ・アシボソスゲなども素晴らしい。去年はガッサンチドリが確認されました。それからシロバナトウウチソウに謎が多いです。鳥海山の植物は調査され尽くされた、とは到底言い難いです。研究されねばならないこととテーマは無尽にあります。鳥海山は国宝です。当然ながら鳥海山の自然環境保全は積極的でなければなりません。(残念なことに登路から外れたイチリンハクサンイチゲ群落への大勢の踏み込みがみられます)(以下略)

大仙市在住の堀井雄治郎さんからのお便りの一部です。堀井さんは、日本植物分類学会の会員で、脇本城跡や和賀山塊等の植物相・植生調査等をなされています。

また、お手紙とともに、鳥海山の名花、チョウカイフスマについて貴重な研究内容の一部が送付されてきました。会誌の原稿ではないとのことですので、掲載は出来ませんが、出来れば10月の講演会等において直接堀井さんからお話を伺える機会を設けたいと考えています。

◎第2回目の研修会の予定

5月31日の講演会後の次の研修会は7月26日(土)に「鳥海山の景勝地の探索」を予定しています。会員の方でご推薦いただける景勝地がありましたら、メールやお葉書で事務局までご紹介ください。

原稿をお寄せください

会報に毎回「私の鳥海山」というテーマで会員の記事を掲載し、インターネットでも読むことができるようにします、と前回の会報で記しましたが、現在悪戦苦闘中です。今しばらくお待ちください。

ところで、山に対する思いや研究余話等を2,000字以内の原稿(パソコンの場合は字の大きさを11ポイントとし、横書きとする)、あるいは写真・絵画及び詩歌などの作品を募集していますが、結果的には1通のみでした。今後も作品をお待ちしていますので、どしどしお寄せください。

事務局と連絡先

秋田県由利本荘市森子字八乙女下123

多田 厚方 鳥海山の会事務局

TEL 0184-53-3453

メールアドレス mtc.ayu@gmail.com